

全建連新聞

全国建築工事業
団体連合会
東京都港区新橋5丁目
30番7号 〒105
加賀ビル1階
電話 03(433)2875

全建連とともに事
業の安定と進展を
はかろう。

いよいよ本格活動へ

全建連共済制度を創設

全国の建築工事業に従事する仲間が強い希望をもち、当会が設立されたのは昨年の八月。いよいよ本年は本格的な事業活動にとりむき大きな年を迎えたいわけであるが、五月十九日午後一時、東京・永田町の「自由民主会館」を会場に、全国各地から約一〇〇名の代表が参加して、第一回総会を開催した。四十六年度の事業報告を承認するとともに、中小細組企業の助成、経営指導対策を九項目の昭和四十七年度事業活動決定した。

今井喜三会長留任

総会では、米沢副会長の開会の辞には、議長団に加藤(三)重、芦田(千華)両氏を連任、今井会長から挨拶があった。自民党、労働組合関係各界の代表から激励の挨拶があつて、議事に入った。

まず中川事務理事から四十六年度における建築界のおかれたまじしい環境、事業活動の経過などの事業報告があつてこれを承認。ついで石井事務理事から別掲の事業計画が提案され、秋田県連から出された「技能競技大会の開催」(労災保険取扱の改善)などの意見を認め原案を採り決定された。

役員改選は各分会を別項の

5月19日 第2回総会を開催

全国建築工事業団体連合会第2回総会



多数の来賓を迎え、揚々とした雰囲気の中で挙行された「第2回総会」。(米沢副会長・開会の辞)

昭和四十七年度の建設投資は十八兆七四〇〇億円、対前年度比で十二・三%の増加が見込まれている。いままもなく建設業発展の最大の要因は建設投資の著しい増加にあるものであり、その意味で、この膨大な建設投資額に寄与する期待は大きい。

しかしながら前年度からいよいよ不況は、戦後最長のものになつてまいり、中小細組企業をとりまく経営環境はそれほど楽なものではない。いこのような経営圧迫に直面することも限らない。現に受注が落ち込んだという声も聞かれる。

こうした情勢の中で、本年度は次の諸対策を重点に事業活動を推進してきたい。

一、中小細組企業の助成措置、経営指導

いかなる経営変動にも対応できるように経営基盤を確立するため、次の事項に対処する。

(一) 資材の共同購入、工事の共同化等を手はじめに協業化を推進する。

(二) 企業診断制度の活用

(三) 運転資金、企業合理化資金等融資対策についての指導

(四) 福祉共済活動

47年度事業計画概要

九項目の活動方針

(一) 建設国保への加入促進

(二) 調査、研究活動

(三) 建設技術者の養成と技能の向上

(四) 建設技術者の養成と技能の向上

(五) 建設技術者の養成と技能の向上

(六) 建設技術者の養成と技能の向上

技術向上・実力接近

第10回 技能五輪終る

技能五輪全国大会(日本産業訓練協会・主催)は五月十九日午前十時の日比谷公会堂において開会式をかわりに中央技能センター、職業訓練大学など九会場に別れた。第十回目を迎えた今年の大会は、七六二名の選手が参加し、二六職種にわたって催され、各種ともまさしき競争を前大競技が展開された。

現代青年らしく色とりどりのユニフォームを身につけ、尺や墨壺を手に画面にとりあつたその姿には、職にうちこむ人間の美とも

は、早月の候に似た爽やかさが感

動にも対応できるような基礎を

つくりあげたいと思ひます。

つきには情報時代に即応し

て會員の皆さん方に、有益な情

役員が選出され、最後に唐居副会

長から閉会の辞があつたのち、ひ

きつき懇親会が催された。北

川副会長の乾杯高唱に全建連い

そこの飛躍を誓ひ合い、午後四時

半、盛會裡に幕を閉じた。

▲来賓

阿部 文男(衆議院議員)

私は、去る五月十九日の総会

な成果をあげ得なかつたことを

ではなにとおぼやけおぼやけ

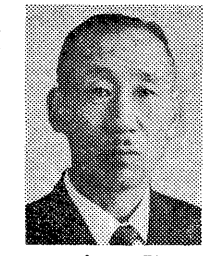
このため事業活動の重点とし

ては、まず第一に中小細組企業

の助成措置や経営指導に精力的

に対処して、どのような経営変

遷の将来の命運にかかわる重大



会長 今井喜三

事業活動を

積極的に推進

このため技能者

等の養成確保

等の上向きと

にも対処しな

ればなりません

題について、具体的に

実に効果あがるよう万全の措

置を講ずる所存であります。

皆さんのご理解あるご協力を切

にお願ひする次第であります。

▲祝電

荒船清十郎(衆議院議員)代理

大野 明(衆議院議員)代理

原 健三郎(衆議院議員)代理

村上 勇(衆議院議員)代理

労働大臣賞の授賞式(上)

建築大工の競技風景(下)

第10回技能五輪全国大会閉会式

江戸火消しの

女性消防官が登

場した。いなせ

な江戸の火消し

たちの顔をみて

みた。きつと苦笑して

ちがいない。消防のなかで

最近、ますます要求されている

のは、予防業務を効果的に

行うことである。大都市の消

防に予防業務が要求されるとい

うことは、いかにいえるは、い

たん火事がおこると、消防力

にあまり期待できないというこ

ともである。また、東京

の場合、大地震で予想される火

災から東京を守るには、都民の

自力消火がとてまやれるかに

かかっているという。このため

東京都は震災予防条例で、各家

庭にも消火器をおくように義務

づけた。とて、世界の一

般住宅のなかで、日本のそれは

いかに火災には弱い構造であ

る。それとて、いったん燃えだ

したら手がつけられない。い

われわれ建築士として、日本の

建築工芸の伝統を守ることはも

ちろんのこと、そこにもやはり

新しい技術を取り入れて、火災

にも強い住宅をつくるというこ

とが使命でもあろう。女性消

防官の登場は、われわれ建築士

にも無関係ではない。若いお嬢

さん消防士に拍手を送ろう。

ほいことに気がついた。今、

業界の中心者と自覚し、技術の練

磨、指導に尽してほしい。諸君は

職場の模範であることと謹言した。

浅利茂人君ら

欧州へ研修に

なご今年は技能五輪が中止にな

つたため、上位入賞は秋、研修

を目的にヨーロッパへ派遣され

る。確か海防期、国名、派遣選手

は、現在打合せ中で、近々決定し

たい発表される。

主な一位入賞者は次のとおり。

建築大工 浅利茂人(東京)

家具 西村正豊(高知)

建築 吉田武寿(富山)

左官 小杉利文(新潟)

配管 石倉 桂(鳥取)

打出板金 後藤照明(愛知)

曲付板金 吉川 昇(大阪)

構造物鉄工 表谷隆二(茨城)

常務理事 中川 勝

兼事務局長

理事 田中 良一(北海道)

中村 民蔵(秋田)

木村 長久(福島)

芦田 良光(千葉)

田中庄太郎(東京)

新井 又吉(東京)

下笠 新松(福井)

加藤 定男(三重)

今河 金蔵(京都)

岡田 勇(奈良)

松本 利雄(兵庫)

黒田 重雄(兵庫)

神尾 広海(佐賀)

多田 武次(千葉)

田辺銀四郎(神奈川県)

管野 勉(三重)

大野 明(衆議院議員)

小坂徳三郎(衆議院議員)

地崎宇三郎(衆議院議員)

中山 太郎(参議院議員)

原 健三郎(衆議院議員)

村上 勇(衆議院議員)

高綱 綱吉(北海道)

山内 滋(北海道)

小浜 徳蔵(秋田)

成田喜八郎(秋田)

越後泰太郎(秋田)

佐々木六郎(秋田)

堀川 芳美(秋田)

柳内 真平(福島)

早川竹之助(千葉)

中山 勉(東京)

阿島 七郎(東京)

田中幸治郎(東京)

有賀 巻雄(東京)

鶴田 国茂(東京)

鈴木 国男(東京)

齋藤 亮吉(東京)

田中 市郎(東京)

田辺繁太郎(神奈川県)

池内 吉蔵(福井)

野々山 敏次(愛知)

小川 平継(三重)

市川 秀夫(三重)

岩谷 昇(三重)

前田 秀雄(京都)

谷田 政一(京都)

細谷 一義(京都)

桐山 嘉弘(奈良)

合田 政雄(兵庫)

森川 輝二(兵庫)

藤田 一雄(兵庫)

福田 幸成(兵庫)

井上与八郎(佐賀)

飛松 源一(長崎)

事務所移転のお知らせ

当会の運営につきましては、ご了承の上、今後とも

素から格別の協力を賜わり、協力のほどをお願ひ申し上げ

厚くお礼申し上げます。

当会発足当時より、本部事務

所を、港区新橋の「加賀ビル」

に置いて活動してまいりました

が、組織・運営規模の拡大と

もない事務所を七月一日より下

記へ移転いたすことになりました。

電話 東京

〇三三九六 三三八一

